

20. ポンプ随想 井戸および地下水学入門

大島忠剛著
信山社 (1995)
A5判 p.316
定価 3,038円



目次

まえがき

第1章 ポンプ概括

1 ポンプもいろいろ、2 なぜ、今どき手押しポンプかって？、3 ポンプ情報収集の記、4 ポンプ字義と関連語、5 ポンプお拓、6 地下水について、7 井戸とポンプについて ((1) 井戸の由来、(2)井戸の分類、(3)井戸水の汲み上げ方、(4)井戸端会議)、8 手押しポンプ (井戸ポンプ) の水はなぜ汲み上がる？

第2章 ポンプ随想

1 置き土産の井戸とポンプ、2 台湾のある集落にて、3 思い出のポンプ、4 地盤沈下を示すポンプ、5 本郷・菊坂通りのポンプ、6 佃島のポンプと塩水化、7 墨田区と区民の雨水利用の取組み、8 国分寺市の「むかしの井戸」、9 飾り、展示や修景のポンプ、10 井戸掘りの海外援助と技術移転、11 上総堀り見聞録、12 井戸の信仰・神事、13 地下水 (井戸水) の汚染と雑用水化、14 うまい水、15 揚水機いろいろ、16 奇跡の水・ヘレンケラー女史、17 宅地開発工事と井戸の消失、18 気賀関所跡にあるポンプ、19 池之端「弁慶鏡ヶ井戸」のポンプ、20 スクリーンからのポンプ ((1)テレビドラマから、(2)テレビコマーシャルから、(3)ニュース、トピックス、ドキュメンタリーから、(4)映画スクリーンから)、21 絵画、スケッチ、書籍等からのポンプ、22 カンボジアの井戸ポンプ、23 コロンボ郊外ポンプ探索記、24 今の生産、販売されている手押しポンプ、25 ポンプ収集の記、26 洗濯場所と用具の変遷、27 ポンプアラカルト (その1・場所) ((1)まちかどのポンプ、(2)公園のポンプ、(3)寺院・神社のポンプ、(4)田畑のポンプ、(5)庭のポンプ、(6)入口、門および玄関前のポンプ、(7)台所のポンプ、28 ポンプアラカルト (その2・態様) ((1)壊れ、放置されたポンプ、(2)遺棄されたポンプ、(3)引退したポンプ、(4)隠居したポンプ、(5)第二のポンプ生をおくるポンプ

第3章 井戸および地下水学入門

1.井戸と地下水流の基本的な理論、2.地下水流に関する方程式、3 自由水面のない地下水 ((1)掘抜井戸 (完全貫入)、(2)掘抜井戸 (部分貫入)、(3)傾いた帯水層からの掘抜井)、4 自由水面のある地下水 ((1)井戸のまわりの地下水 (完全貫入)、(2) 井戸のまわりの地下水 (部分貫入)、(3)地下水流の場での井戸からの汲みあげ、(4)海の近くの井戸)、5 非定常地下水流 ((1)自由水面のない地下水の非定常流 (揚水量一定の非定常井戸) 井戸関数、(2) 自由水面のある地下水の非定常流 井戸のまわりの非定常流
追記 「阪神・淡路大震災に思う」

あとがき

<参考文献>

紹介コメント

著者は、日本住宅公団(現在の都市再生機構)に長く勤務され、その後建設コンサルタントで業務をされた方でポンプ会社の方ではないが、ポンプに愛着を持ち、ポンプが消えていく今こそ後世に記録を残していくことが大切であるとの思いから出版された。日本では、水道の普及が進み手押しポンプの需要は少なくなっているが、現在も現役で使用されているところもある。第1章では、そのポンプについての概要と共に井戸や地下水に関する話題について述べられている。海外ではこれから浅井戸ポンプが普及しようとする国々もあり、その紹介もされている。第2章のポンプ随想では、ポンプと生活文化・風俗に関する内容を随筆風に記載され、どこからでも読めるものとなっている。第3章は、専門的な地下水学に関する理論や方程式などかなり専門的な内容となっており、大学生や専門家にとって役立つものである。参考文献も紹介され、さらに興味を持って調べてみる人の便宜を図っている。著者は、雑学として誰かの役に立てればとの回想をしているが、ポンプについて様々な知識が網羅され役立つ本となっている。